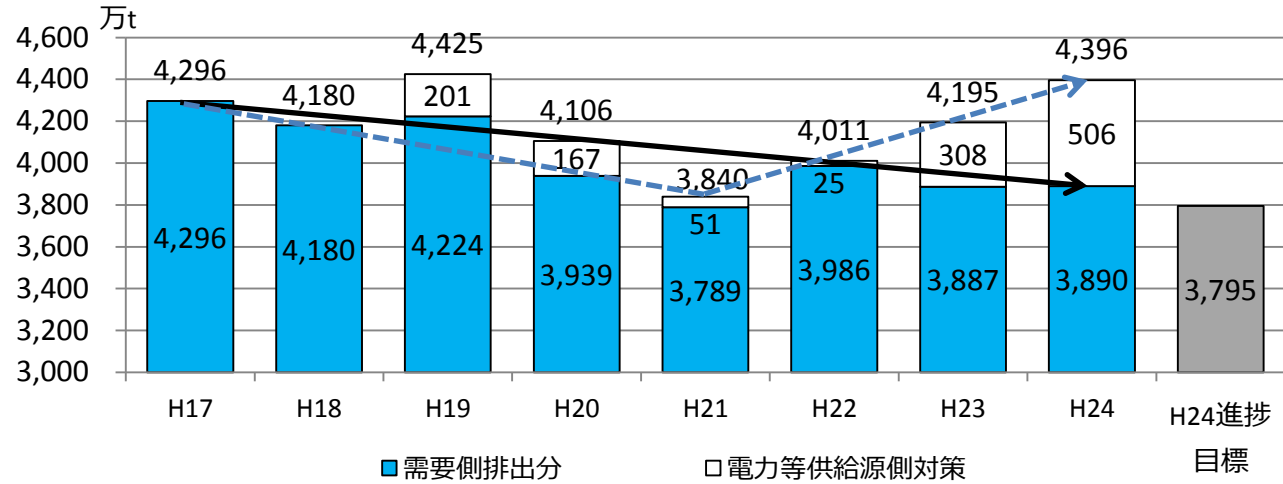
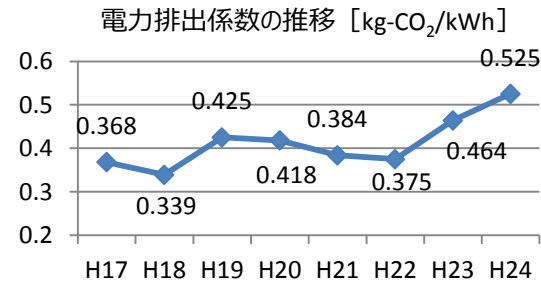


## 埼玉県の温室効果ガス排出量の推移



東日本大震災以降、電力排出係数の悪化に伴って、県民・事業者側の努力が及ばない、供給源側を原因とする温室効果ガス排出量が大幅に増加



## 目指すべき将来像・計画期間

＜目指すべき将来像＞

再生したみどりと川に彩られた低炭素な田園都市の集合体

＜計画期間＞

平成21（2009）年度～平成32（2020）年度

変更なし

## 削減目標

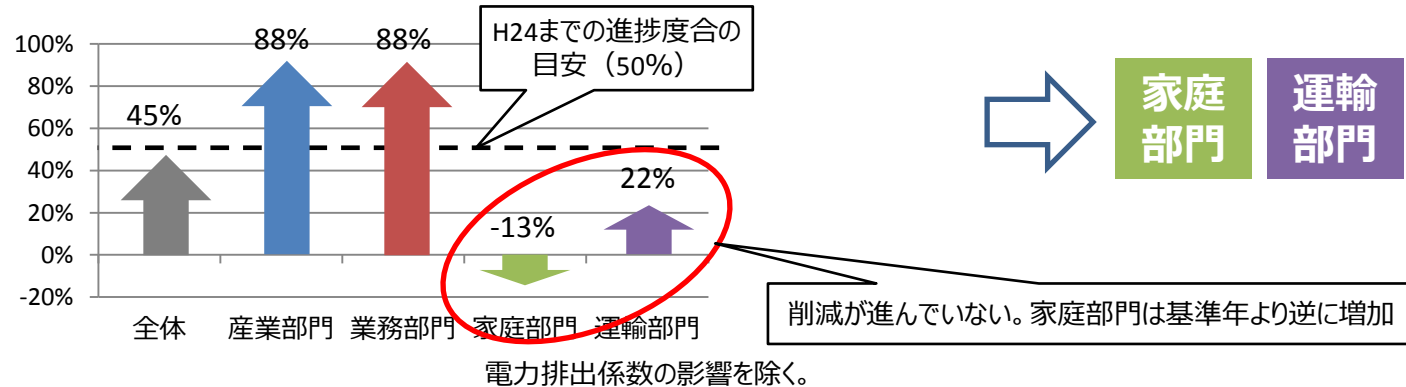
現行計画に掲げた目標を踏まえ、  
県民・事業者側の努力を適切に反映することのできる  
目標を検討

## 削減実績に基づく計画期間後半の方向性

＜現状認識＞

家庭部門、運輸部門での削減が進んでいない

現行計画の部門別目標削減量（需要側）に対するH24までの実績削減量（削減進捗度合）



地域総ぐるみでの省エネ・低炭素化に取り組むことが必要

## 計画期間後半 重点テーマ

家庭部門の省エネ化を進める

省エネ技術の進展を活用し、生活の質を低下させることなく省エネを進める。

運輸部門の低炭素化を進める

運輸・交通手段の転換を促し、運輸部門から排出されるCO<sub>2</sub>抑制を図る。

再エネの活用と産業発展の好循環をつくる

再生可能エネルギーの活用を進めるとともに、関連する先端産業発展との好循環を創出する。

## 適応策への積極的取組

緩和策と並ぶ、地球温暖化対策の「車の両輪」としての適応策を推進する。